

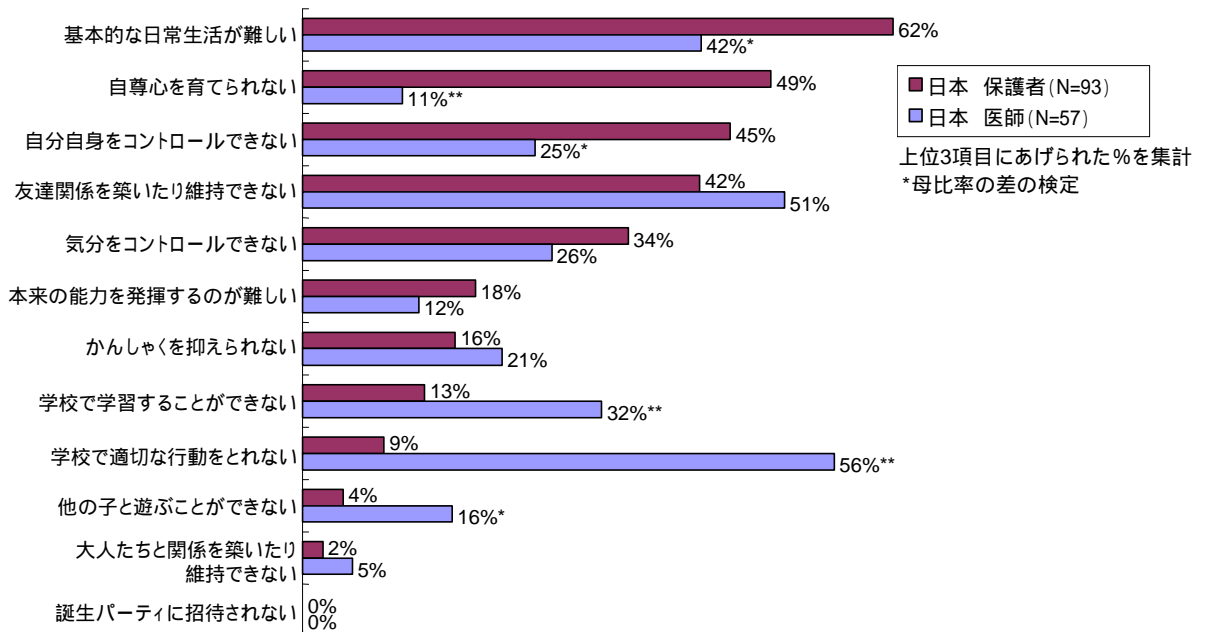
調査結果

【調査概要】

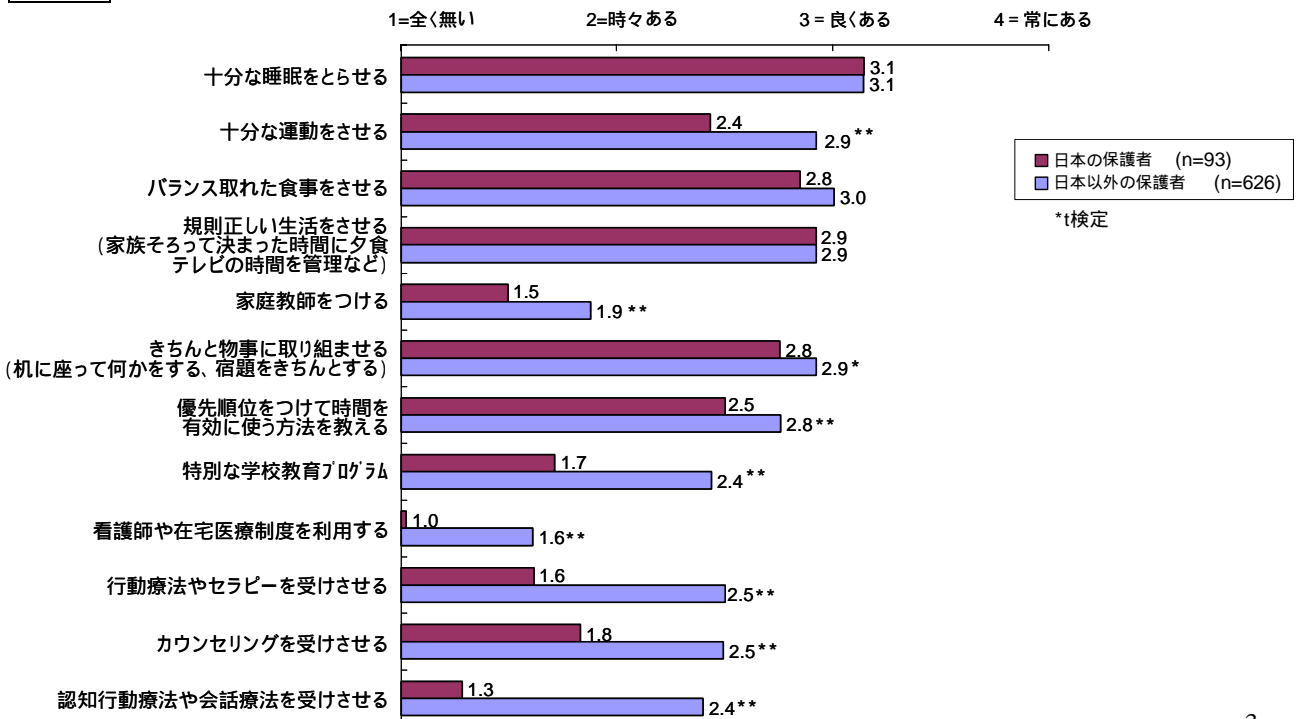
- 調査主体 : 世界精神保健連盟(WFMH)、イーライリリー・アンド・カンパニー
- 調査タイトル : ADHD360 国際調査
- 調査対象国 : 9カ国
 日本(保護者:93名、医師:57名)
 中国(保護者:75名、医師:75名) 韓国(保護者:76名、医師:75名)
 カナダ(保護者:76名、医師:75名) メキシコ(保護者:82名、医師:75名)
 英国(保護者:75名、医師:79名) ドイツ(保護者:75名、医師:75名)
 フランス(保護者:75名、医師:75名) スペイン(保護者:92名、医師:77名)
- 調査対象 : 7-18歳のADHDの子をもつ保護者 合計719名
 ADHD児の診療経験2-30年の医師 合計663名
- 調査方法 : 日本…郵送/国外…インターネット

【主な調査結果】

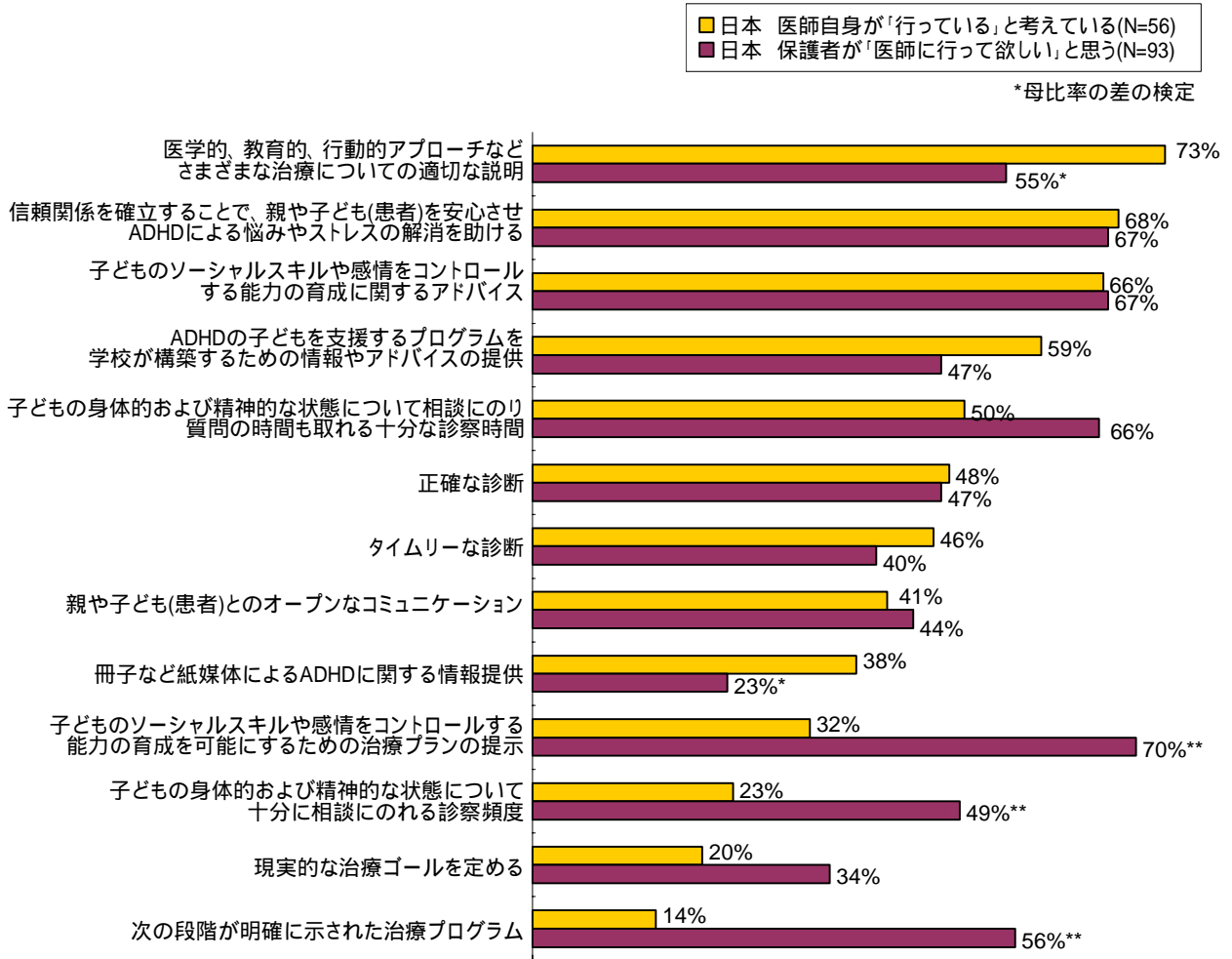
グラフ ADHD児が成長していく過程で、最も心配していること



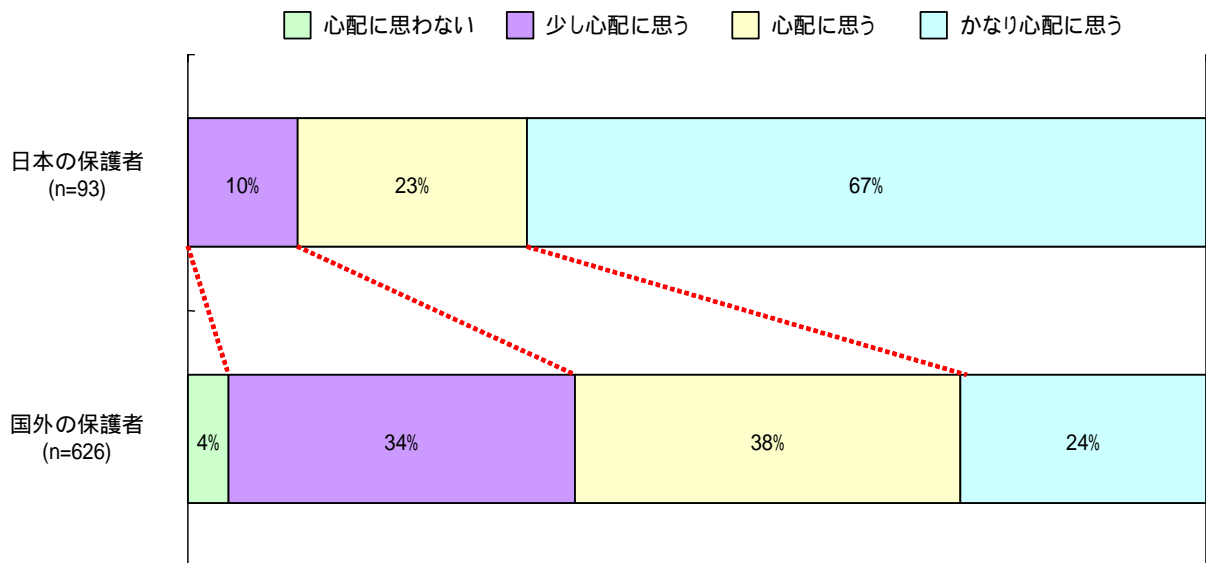
グラフ 子どもの症状をコントロールするために行っていること



グラフ 医師が「行っていると思う」こと、保護者が「医師に行って欲しい」こと



グラフ 「ADHD 児が将来自立し、社会で生活していくこと」について 心配の程度



世界精神保健連盟(WFMH)の使命



- 精神保健の意識向上、精神疾患の予防、治療方法の進歩を促進する。
- 精神疾患を持ち人たちのケア、治療、回復のあり方を改善する。
- 精神保健に関する一般社会の認知度の向上を行い、社会の理解を促進する。